

# 学内異分野ネットワーク構築の取組

URA 福島 杏子



## 背景

- プロジェクト型の競争的資金が増えており、専門分野以外の知識が必要とされる。
- 「イノベーション創出に向けて、基礎となる科学的な成果を着実に生み出すことはもとより、近未来を見据えて社会実装し、あるべき社会に変えていくための大胆な連携や交流の仕組みが必要である。」  
「我が国の中長期を展望した科学技術イノベーション政策について-ポスト第四期科学技術基本計画に向けて-」(中間とりまとめ)より抜粋
- 「国立大学改革プラン」等で「役員や経営協議会委員、学長選考の委員として学外者の経営参画を法定化し、法人の経営に参画」が求められている。

# 研究を行う上での基盤となる 学内ネットワークの構築

---

- 多様な背景を持つ大学の構成員同士が議論をする場の構築
  - ✓ 異分野交流会（アカデミックバー）
  - ✓ シーズ・ニーズ創出強化支援事業（イノベーション対話促進プログラム）
  - ✓ 科学技術政策セミナー
- 「研究支援」にかかわる人々とのネットワーク構築
  - ✓ 助成財団における助成プログラムリスト

## 科学技術政策セミナー

---

- 平成24年（2013年）3月から数ヶ月に一度開催
- 科学技術を下支えしている科学技術政策について焦点をあて、大学の構成員を対象として開催



# 科学技術政策セミナー 実績(H25年度)

科学技術政策とはなにか

小林信一氏(筑波大学研究センター)

文献データを使った  
「大学の評価」とその意味

調麻佐志氏(東京工業大学理工学研究科)

民間助成財団とはなにか、  
研究者はどのように活用すればよいのか

渡辺元氏(助成財団センター)

EUの科学技術戦略と日欧連携

市岡利康氏(日欧産業協力センター)

科学技術基本法制定および科学技術基本計画について

吉澤剛氏(大阪大学医学系研究科)

科学技術政策の中で求められる大学の役割-若い教職員にむけて

有本建男氏(政策研究大学院大学/JST研究開発戦略センター)

\*肩書きは当時



# 科学技術政策セミナー 実績(H26年度)

今後の科学技術イノベーション政策の  
方向性と「夢ビジョン2020」

齊藤卓也氏(文部科学省大臣官房政策課)

\*各回の開催概要は本日の配布資料をご覧ください。

大学からみた科学技術政策

職員、文部科学省へ出向する: 花岡宏亮氏(大阪大学大型教育研究プロジェクト支援事務室)

科学技術庁(現 文部科学省)を経験して、研究の道に進む: 神里達博氏(大阪大学CSCD)

研究者、経済産業省へ出向する: 北岡康夫氏(大阪大学工学研究科附属高度人材育成センター)

研究助成機関における戦略と大学における研究・実務とのつながり

我が国の科学技術をとりまく現状と研究開発戦略: 中山智弘氏(JST企画運営室)

NEDOにおける技術開発マネジメントと技術戦略立案の試み: 白川展之氏  
(NEDO産業技術総合開発機構技術戦略研究センター)

コメンテーター: 細野光章氏(東京工業大学研究戦略推進センター)

\*肩書きは当時



# 科学技術政策セミナー 課題とこれから

## 【課題】

- 教職員への周知と参加者増に向けた仕組み
- 多様なバックグラウンドを持つ構成員同士が対等に意見交換をするための工夫

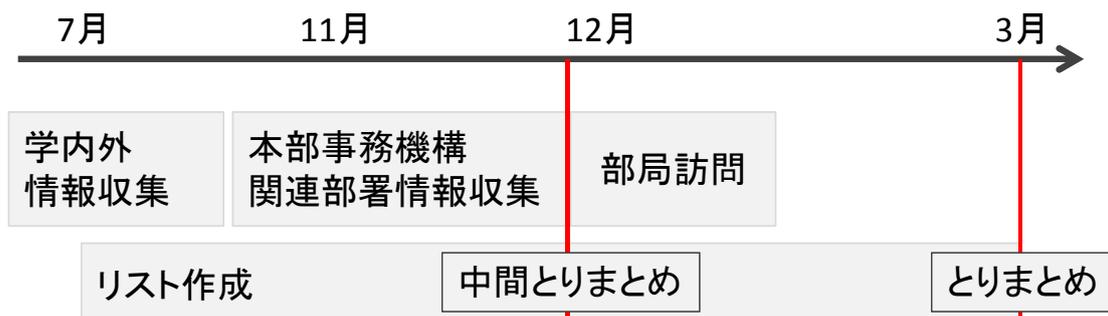


- 「学術政策セミナー:大学のこれからを考える」と名称を変更し、事務系職員研修の一環とする。
- 学術や大学を取り巻く様々な状況について参加者と共に学び、大学の構成員が自身の業務や変革期における大学の役割について考える際の一助とする。

## 助成財団に関する 「助成プログラムリスト(人文・社会科学)」

- 学内で研究支援をしている人材(教員・事務系職員・URA等)とコミュニケーションを図り学内体制整備

### 【これまでの流れ】



# 助成財団に関する 「助成プログラムリスト(人文・社会科学)」 課題

【見えてきたこと】

- 部局(現場)が持つ一次情報に触れることが可能
- 部局内情報周知のための体制の比較が可能



- 本リストのメンテナンスの仕方
- 現場が必要とする情報とのすり合わせ

- 学内で周知される情報との整理

## これからの予定

- 大阪大学内の異分野・異業種のネットワークの構築を目指す
- 部局にて研究支援・庶務・会計業務を行っている事務系職員とのつながりを作り基盤整備を目指す